



やわらっ子 未来につなぐ 笑顔のバトン ～谷原小の合言葉～

校長 伊藤 雄一

9月1日、2学期のスタートにあたり行われた6年生の学年集会にて、私から「谷原小の70年の歩みを踏まえ、これからの谷原小に関わるすべての人に向けた合言葉を考えてほしい」と呼びかけました。70年の歴史や開校当時の地域の方々の思いを伝えたくて、託した思いです。来年度迎える開校70周年の節目を祝うだけでなく、今後も『みんなの谷原小』として親しまれる合言葉をというリクエストに、実行委員の6年生が応えてくれました。そうして誕生したのが、「やわらっ子 未来につなぐ 笑顔のバトン」という言葉です。70年にわたる谷原小の歴史の重みと未来への願いが込められた、素晴らしい合言葉だと感じています。

9月28日の全校朝会で発表した際には、6年生の実行委員の児童の思いと、見守り指導した先生方の姿勢が伝わってきました。今後は多くの方から見ていただける場所への横断幕の設置をはじめ、様々な場面でこの合言葉を大切に育んでまいります。

開校以来、子どもたちにとっても学校にとっても試練の時期があったことでしょう。しかし「笑顔のバトン」は、確かに今を生きるやわらっ子たちへと受け継がれています。この言葉には、日々の学校生活や、それを支える教職員・保護者・地域の皆様の情熱など、目には見えずとも大切な谷原小の宝である「無形の力」が込められています。

先日、開校当時の卒業生や関係者の皆様をお迎えし、70周年記念誌に掲載予定の座談会を開催いたしました。最高齢80歳となられる方も、お元気な姿で思い出の校舎や当時の思い出を語ってくださいました。「笑顔のバトン」が今も途切れることなく脈々と流れていることを実感するとともに、これからも未来へと大切に繋いでいきたいという思いを新たにしております。

令和8年度も折り返しとなり、今月は10月24日に運動会を行います。大勢の皆様にやわらっ子たちの頑張りと笑顔を見ていただけるよう準備を重ねていきます。お力添えをどうぞお願いいたします。

第4回 校章制定と校旗完成



谷原小の校章は、50周年記念誌にそのデザインの由来が記されています。「昭和32年7月、校章が決まりました。デザインには、練馬を代表する大根が基調とされています。3つの花びらは、それぞれ子どもであり、知・徳・体を表しています。周囲の3つの葉は、学校、保護者、地域を表し、それら三者が子供たちを温かく包み、健やかに育てようという願いが込められています。」

周年記念誌の年表には、校舎に引っ越し、谷原小としてのスタートをしかばかりの「昭和32年7月 校章制定(一般公募)」のみ記されています。公募とあるが、誰のデザインなのかと調べている中で、学校に周年記念誌とは別に保管されていた「PTA二十五年のあゆみ」という谷原小学校PTAの記念誌に更に詳しい記録を見つけました。谷原小学校の開校から5年間勤務された 橘 常孝 先生(練馬区立泉新小学校校長で退職)のデザインが採用されたこととあわせて、原稿に次のように記されていたので紹介します。「子どもの教育のより大切さが認識されてきた(昭和)30年代に、良い環境で良い教育をと、父母が、地域が、教師たちが願いをこめて誕生したのが谷原小学校でした。新しい学校づくりを進めていくのに必要な、子ども達が心を一つにする象徴が欲しいと校章、校歌の制定が話題にのぼりました。かねて練馬出身の私は、練馬を代表する大根をデザインした校章は(当時)未だ一つもない事を残念に思っておりましたので、大根を基調とした図案を作成し、提案した所、幸いにも取り上げられたのが、今日に見る谷原小の校章でした。(～中略～)今後、谷原小学校の続く限り、大根の葉の三者が固く結びあい、リっぱな実を作る大業を推進して下さるであろうことを、開校時に在職した一人としてまた、校章発案者としてお願いするものです。」

その後、開校5周年記念事業として、昭和37年(1967年)6月7日に、校章がデザインされた新しい校旗がお披露目となりました。校章をあしらった校旗の作成は、当時の学校、保護者、多くの方の願いでありました。PTAの皆様の力により、5周年記念事業の一つとして、当時の6年生の卒業のタイミングで寄贈されました。当時の校旗が今も大切にされています。また、現在の新校舎完成にあわせて、校庭側の校舎の中央には校章のレリーフが設置されました。大変立派なレリーフで、60周年の際は化粧直しがされました。

私は、校章にあしらわれている大根の花には別の意味も込められていると考えています。「恵まれた教育環境(地域)」、「個性的で人々に愛される豊かさ」、「たくましさ」です。校章に込められた草創の皆様の思いをこれからも繋げていきたいです。

